

登山・登攀の記録

北アルプス 爺ヶ岳冷尾根

日時:2007年3月9日~3月10日

メンバー:中村琢磨、新谷岳史

概要:大谷原より入山し、冷尾根を經由して爺ヶ岳中央峰に登頂、爺ヶ岳東尾根を下降して鹿島集落に下山した。天候・雪質に恵まれ、迅速に山行を遂行することができた。

記録

3月8日

夕刻、中央線利用で信濃大町に向かうべく出発。しかし、あろうことか列車を間違え、東京まで出てしまう。約1時間遅れて八王子から特急に乗る。新谷に詫びのメールを打ち、その日は松本止まりであった。

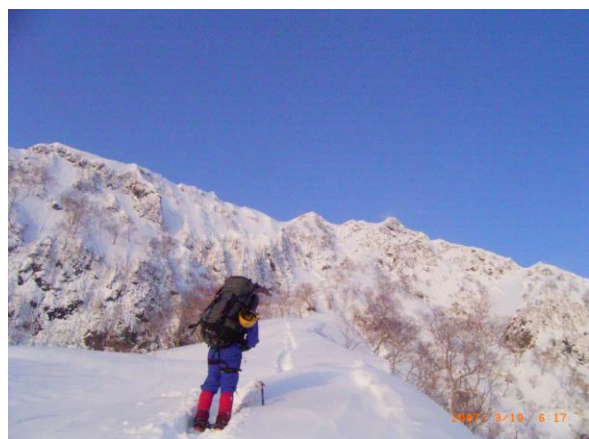
3月9日 晴

出発(8:25)~小冷沢出合(8:50)~取り付き(9:25)~冷尾根 1971m峰(12:30)~T.S(2150m付近)(14:15)~トレース付けに出発(15:20)~T.S着(16:20)

朝、始発で大町に向かうも、今度は新谷から到着が遅れるとの連絡を受ける。焦っても仕方が無い。今日は天気が良さそうだから、腹を据えてかかることにする。7時38分に新谷が到着し、タクシーで大谷原に向かう。8時30分スキー場手前のゲートに至る。今年は雪が少ないため、大町市街地と周りの里山は真っ黒だ。それでも鹿島集落を越えると、それなりに根雪があり、除雪されていないために大谷原の手前で降ろされた。林道にはトレースがついており、それなりに入山者がいることがわかる。鹿島槍東尾根をねらっているのだろうか。まもなく大谷原に至り、橋を渡る前に小冷沢に延びる林道に入る。渡渉するのは嫌だなあとへたれたことを考えつつ小冷沢を詰める。やがて1971m峰の支稜がスカイラインに見えてくる。支稜の基部は砂防堰堤を巻いて行かなければならないため、堰堤の手前で左岸に渡り、ルンゼを横切って支稜に取り付く。幸い水量も少ないので濡れることなく渡りおえる。支稜は下部がブナを中



心とする冷温帯落葉広葉樹林であり、1600mを越える辺りから尾根筋にクロベ、コマツガが現れる。今年はまだに寡雪で、この辺りでも踏み抜くと地表が見える。しかし、雪質は締まっており、深くても膝程度である。体調が優れない私は1ピッチ目がとりわけ苦しく、新谷にトップを御願ひする。途中、2回ほど小休止を挟んで、12時30分に冷尾根に出る。天気は相変わらず無風快晴で非常に暑い。1971m峰からの冷尾根は、アップダウンがあまり無く、高木に乏しいので尾根上部や爺ヶ岳北稜も良く観察できる。この辺りでは尾根は広く雪庇も少ない。ラッセルは膝くらいまでで安定している。私はだいたい体調が回復したとはいえ、寝不足のためか足元がいささか心もとなかった。2045m峰の先のピークへの登りは、痩せ尾根の雪が少々いやらしいのでザイルの使用を検討したが、取り付いて



登山・登攀の記録

みると大したことではなかったのでノーザイルで通過する。豪雪時は非常に厄介なキノコ雪も、今回は発達が乏しくあまり問題にはならなかった。15時20分に、およそ2150m付近で幕営を開始する。冷尾根は、この辺りから北稜との合流点に向かって急に立ち上がる。幕営後、翌日スムーズに行動できるようにトレースを付けた。夜間も空は晴れで、明日10日に到来する低気圧の影響は、午後遅くになりそうだとすることが予想された。

3月10日 晴のち曇

出発(6:20)～合流地点(8:10)～北稜に出る(9:00)～主稜線(10:25)～爺ヶ岳中央峰(11:00)～爺ヶ岳東 2411m峰(11:35)～1978m峰(12:35)～鹿島集落(15:00)



朝4時30分に起床後、そそくさと朝食の準備を始める。外は相変わらず快晴であり、今日一日は持ちそうだった。6時20分に出発。昨日つけたトレースのおかげで、8時10分、大して消耗することもなく冷尾根と北稜との合流地点にいたる。ここは尾根が雪面に消える地点から左、すなわち、北稜側にトラバースし、ダケカンバとミヤマハンノキのブッシュの下から北稜に乗り移ることにした。まず、中村がリードで雪面をトラバースし、北稜側のミヤマハンノキでビレイ。2ピッチ目は新谷がクラストした雪面を直上し上部のダケカンバでビレイ。ここでは中間支点が無かったが、雪の状態が良かったので不安はない。さらに3ピッチ目はブッシュから左斜め上に向かって上がり、北稜に乗っ越す。北稜に出てすぐ上方に小さなキノコ雪ピークが現れ傾

斜が急だったので、もう1ピッチザイルを出す。リードする新谷はキノコ雪の処理で少してこずるが、まもなく脱出した。このピッチ以降は傾斜が緩くなり、コンテでズリズリと登高する。この頃から高空に雲が張り出してきたが、行動には支障がなかった。北稜の最後は主稜線に伸びた雪庇の乗っ越しである。念のためアックスビレイにて確保したが、雪崩れる気配はなかった。主稜線に出ると黒部側は雪が堅くクラストしており、極めて快適に距離を稼げる。11時に爺ヶ岳中央峰に到着した。時間的にはかなり余裕がある。しばらく頂上で休んだ後、爺ヶ岳東尾根を下り始める。南側に面していながら雪質は比較的締まっており、腐った雪にラッセルを強いられる事も無く高度を下げた。快調に飛ばして11時35分には2411m峰、さらに12時35分には1978m峰に至った。さすがに標高2000mをきると雪が腐ってきたが、13時20分に1766m峰を越え尾根末端に到達した。この辺りは樹林に多くの目印がつけてあり、雪をかぶっているものの踏み跡らしきものも認識できる。雪が少なすぎるため、尾根末端から鹿島集落への下りは落ち葉の斜面にいささか難航するが、15時5分に鹿島集落に下山した。

1. 総括

今回の山行は、案外と天候が良く雪の状態も良好だったため、スムーズに行動することができた。冷尾根は下半分は尾根が広くなだらかなであり、核心部は2200m以上の尾根から北稜に移るところだろう。今回の山行ではそれほど苦勞しなかったが、このエリアの尾根は尾根の向きによって、頻繁に雪庇の出る側が変わる。このため、悪天時に不用意に歩くと雪庇を踏み抜く可能性が高いだろう。また、寡雪のため発達が悪かったが、小ピークに乗るキノコ雪も処理に手間がかかりそう。登高中に隣に見えた北稜は、冷尾根の核心部を拡張したような趣の尾根で、次はこちらにも挑戦してみたいと感じた。個人的なことだが体調管理も山行の成功には重要だと改めて痛感した。出発前にドタバタしていたため体調が優れず、おかげで同行

登山・登攀の記録

した新谷には色々な点で気を遣わせてしまい、申し訳なかった。以後、気をつけるようにしたい。

